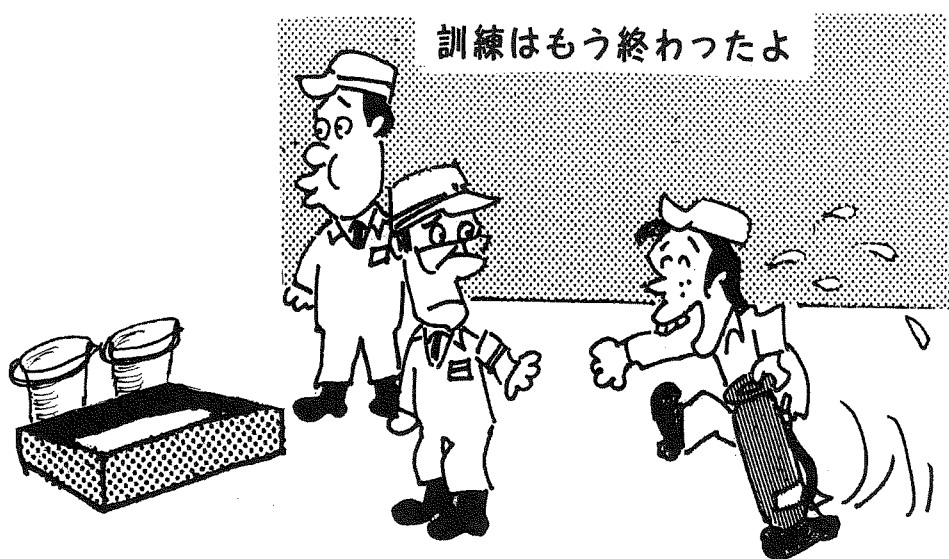


えんすい きんか

# 遠水は近火を救わず

## 火気使用時は消火器等を手元に

「遠水は近火を救わず」とは、「遠くの親類より近くの他人」と同じ意味で、いざというときに必要なものが遠くにあったのでは間に合わぬということです。



いくら立派な消火設備や消防態勢が整えられていても、出火を見つけ、火を消す機能はそこにいた人の一杯の水、一本の消火器にかないません。

遠くの水では近くの火は消せない、つまり「遠水は近火を救わず」です。

職場や現場で火気を使用するとき、手もとに消火用水や消火器を置くのはそのためです。

溶接・溶断などを行っていて、万一付近の可燃物が燃え出しても、手もとに消火器などがあれば消し止めることができますが、それがなかったばかりに大火事になった例がたくさんあります。

しかし、消火器が近くにあっても、効果的に正しく使えないと役に立ちません。

消火器に限らず、危険・有害作業での非常用機器なども普段から整備を行い、使用方法を熟知しておく、いざというときの確に使えるようにしておきましょう。

年末からの冬季のこの時期、火災の多発時期です。火を使う場所には消火器等を忘れずに。